

幼稚園番号	1276468
園名	葛西めぐみこども園

すくわくプログラム活動報告書

テーマ 「自然との関わり（自然物を見て、触って、疑問におもったことを共有し、学びを深める）」

1. テーマの設定理由

5歳児（年長）クラスを対象として、自然の中にあふれる色・形・匂い・手触りなど五感を使い、園児が自由な発想で探究活動を行いました。「これは何？」「どうして？」の園児から生まれた疑問について、保育者がサポートしながら理解を深めていくことができました。

2. 活動スケジュール

9月「稲の観察」 稲刈りを体験したり、稲の乾燥・脱穀までの間、時間の経過で変化する稲の色や稲の硬さを定期的に観察する。
10月「身近な自然物を違う視点から見る」 探究の場アトリエで、投影機を用いて稲や園児が見つけた秋の草花を接写で映し、秋の植物について探究する。
11月「植物の成長（種から育てる）」 苗の育て方を教員サポートのもと園児が研究し、温室を使用して収穫した米から苗を育ててみる。
12月「植物の成長（環境の違い）」 ヒヤシンスを屋外と温室の両方で育て、育ち方に違いがあるかを観察し、写真を撮って記録する。
1月「自然の中にある匂いを感じる」 育てたヒヤシンスの花や、園庭にある草花やビオトープの植物の匂いを嗅ぎ、自然の中にある匂いの違いを園児各々で見つける。
2月「自然への疑問を共有する」 暖房の効いたアトリエでの活動で、園児が見つけた自然のものをライトテーブルで光で透かしてみ、園児同士で気づいたことについて話し合う。
3月「自然との関わりを考える」 今までの記録をまとめて園児同士で発表し、感じたことについてビオトープやアトリエで自由に研究し、自然への興味・関心を広げる。

3. 探究活動の実践（活動の内容について）

〈活動のために準備した素材や道具〉

電子黒板、投影機、パソコン、温室、水耕栽培機、ライトテーブル、稲（お米）、園庭やビオトープで見つけた植物（葉、花、落ち葉、どんぐり、夏みかん）石、木の枝、ヒヤシンスの球根、ヒヤシンスを育てるためのペットボトル、画用紙、クレヨン、子どもたちの探究活動の場「アトリエ」

〈環境の設定〉

- ・ビオトープで稲刈りをした稲を園児が観察できることも園内のホールに吊るした。
- ・ビオトープの敷地内にある小屋を、寒い季節でも園児達が自由に活動ができるよう、子どもたちの探究活動の場「アトリエ」として整備をした。
- ・投影機などの機材を導入し、身近にある自然のものをいつもと違う視点から観察できるようにした。
- ・水耕栽培機で精米前・精米後の米の発芽比べをした。
- ・温室を用意して、園児が育てているヒヤシンスに対して環境の違いをつくった。

〈活動中のこどもの姿・声、こども同士や教諭との関わり〉

- ・園児達は日が経つにつれて乾燥していく稲に触り、お米がどこに入っているのかを確認したり、感触を楽しんでいた。
- ・「アトリエ」に園児達が集合し、ビオトープにある草花や拾った石など様々なものを持ち寄って観察をしていた。
- ・投影機で植物等を拡大して電子黒板に映し出すと、園児達は興味津々な様子で次々と他の植物を映したり、「こうしたらどう映るかな？」と考えながらアイデアを出し合って活動した。
- ・精米前後のお米の発芽比べの際、精米後の米は発芽せずカビが生えてしまったが、「カビって何？」と園児からは新しい疑問が生まれた。
- ・ヒヤシンスは屋外より温室で育てた方が早く咲き、「たしかに春はお花がたくさん咲くよね」と、気温によって植物が育つ時間に違いがあることを理解していた。



4. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

これまでもビオトープで野菜を育てたり園庭に生えている草花で遊んだりしていたが、すくわくプログラムの活動を通して園児達が気づいたことを探究し行動する場面をたくさん見ることができた。自然物の匂いに着目した活動の際は、ヒヤシンスをいくつも並べている園のテラスと園庭で感じる香りが違うことに気づき、「お花って良い匂いだね」「木はどんな匂いがするのかな？」と園児自ら草花の匂いを探しに、行動を発展させていく様子があった。探究活動を重ねるごとに様々な気づきやアイデアが出てきて、園児達の自然への興味がさらに広がったと感じた。